

新型コロナウイルス感染症により孤独・孤立で不安を抱える女性に対する支援事業 【札幌市】

地域の実情と課題

・札幌市は、政令指定都市中女性の割合が最も高いが、雇用形態比率では女性の正規雇用者割合は全国と比べて低い。

・新型コロナウイルスの影響を受け、解雇・減収、外出自粛等による影響を強く受ける方々がいると想定されるが、既存の相談窓口では、その実態の把握や支援に繋げることができていない。

事業の特徴

・困難を抱える女性の相談窓口として、匿名で気軽に相談できるLINE相談窓口を開設。

・NPO法人と連携し、生活支援物資等の配布イベントを開催。来場者には声掛けを実施し、お困りごとについて聞き取りを行った。

・イベント来場者にアンケートへの回答を依頼し、実態把握を行った。

事業の効果

・SNS相談窓口における相談者は、具体的な解決策を得ることよりも、話を聞いてもらうことで満足感や安心感を得る傾向にあり、継続した相談体制の継続は、女性の不安解消の一助となっている。

・本事業で関わった女性の中には、すぐにご自身の状況を話すのではなく、相談員やスタッフとある程度関わりをもってから、お悩みを話す方が一定数おり、孤立状態から抜け出す契機となっている。

目的・目標

目的…困難に直面しているが、孤立し相談につなげることができない女性をなくす

	目標	達成度
イベント参加者	500名	647名
訪問支援人数	10名	103件

連携団体

- ・NPO法人女のスペース・おん
- ・NPO法人北海道ネウボラ
- ・特定非営利活動法人CAN
- ・特定非営利活動法人北海道レインボー・リソースセンターL-Port
- ・NPO法人 ピーチハウス
- ・さくらコットン株式会社

など

今後の課題

困難を抱える女性を支援に繋げるためには、まずは本事業を周知することが重要で、その手法に工夫が必要。

アンケートによると本事業を知ったきっかけの65%がSNSであったことから、SNSを活用した広報を拡充するほか、23%は友人から知ったと回答しているため、参加者へ周りの女性に情報を広げてもらえるように働きかけが必要。

事業の概要

・生活支援物資配布等のイベントの開催

イベント来場者へその場で声掛けを行い、悩み事についてヒアリングを実施。本人の希望に寄り添いながら、相談窓口につなぐなどの支援を行った。イベントについては、SNSでの広報やリーフレットを市内小学校を通し配布し周知を行った。事情により、来場が難しい方には配送も行った。



配布したリーフレット



<袋にパッケージしたギフト>



<必要なものを選べるギフト>

・SNS相談窓口「women's LINE」を開設

相談受付 平日13:00~17:00

お困りごとについて相談支援を実施。実施期間中に442件を相談を受けた。

・訪問支援の実施

希望する女性に対し、スタッフがご自宅等へ訪問し相談支援を行った。実施期間中に103件実施。

・アンケート調査

イベント参加者へアンケートの回答を依頼。実態把握を行った。実施期間中に567件の回答を得た。